

岡山のとしょかん

岡山県図書館協会報

(第120号)

瀬戸内市立図書館 回想法@「いきいき・おとどけ便」

はじめに

瀬戸内市立図書館では、平成26年10月から高齢者福祉施設を巡回する移動図書館「いきいき・おとどけ便」を実施しています。そこでは、本の貸出しだけでなく、お話し会や「回想法」を行っています。

「回想法」とは、昔の記憶を引き出すことで高齢者の脳を活性化させ、認知症を予防したり、進行を遅らせたりする効果があるとされる心理療法。1960年代にアメリカの精神科医ロバート・バトラーが始め、日本でも主に医療機関や介護施設などで取り込まれてきました。

懐かしい生活道具を活用した回想法としては、愛知県の北名古屋市歴史民俗資料館（「昭和日常博物館」）の取り組みが先駆的です。岡山県内では、岡山県立博物館が、平成22～24年度にかけて、「博福連携事業」として民具を活用した回想法を実施しました。

図書館による取り組みとしては、滋賀県東近江市の能登川図書館や愛知県田原市図書館などの例があります。

瀬戸内市の実施状況

現在、「いきいき・おとどけ便」は毎月15施設を巡回していますが、そのうち希望のあった12施設で回想法を実施しています。

1施設につき、ふた月に1回20分程度、かつて郷土資料館で展示していたような古い生活道具をいくつか持参し、それらのモノを見ながら思い出話に花を咲かせてもらっています。施設の規模がまちまちで、対象人数も数人という施設から30人くらい集まる施設までであるため、現在のところは、それぞれの事情に合わせて微妙にやり方を変えながら実施しています。

これまでに使用した懐かしの道具は、おひつ、おひつ入れ（ねこぼこ）、羽釜、アルミ製弁当箱、こたつ（置

きごたつ）、湯たんぽ、アンカ、ラジオ、ひのし（こて）、洗濯板、そろばん、防空頭巾、教科書などです。大正時代から戦後間もなくくらいまで使われたものがほとんどです。

生活に身近な道具で運びやすいものを選び、なにかテーマを設定しながら数点ずつをセットにして持って行きます。

手ごたえ

対象者の反応も年齢や状態によってまちまちですが、概して女性の方がよくお話しされます。「懐かしいわあ」「これはなあ〇〇するもんじゃ」などと楽しそうにかつての思い出をお話しされると、こちらも嬉しくなります。

施設のスタッフが聞き役になって、そこかしこで会話がはずむ場合もあります。これは施設スタッフが、期せずして回想法の「コ・リーダー」役を担っていることとなります。信頼関係が成り立っている施設スタッフとの会話はとても効果的ではないかと感じています。若いスタッフに「あんたあわけえから知らんわなあ」と言いながら得意げに教える姿は生き生きしているように見えます。



〔懐かしの道具で思い出を語り合う〕

まだまだ手探りでの実施ですが、ひとときでも楽しく懐かしんでもらえれば、多少の効果はあるのではないかと感じています。

(瀬戸内市教育委員会 村上岳)

吉備中央町図書館 読書通帳紹介

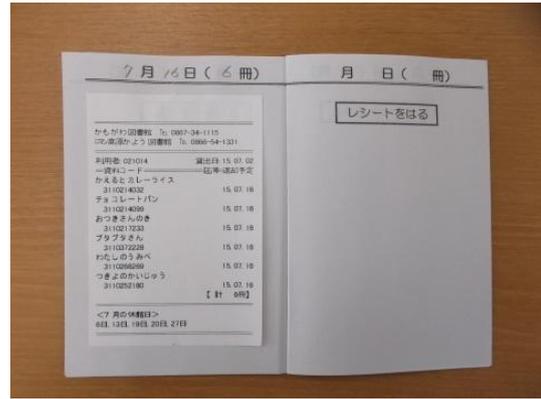
吉備中央町のかもがわ図書館とロマン高原かよう図書館では、平成25年から読書通帳を作成して、利用者の方に活用して頂いています。

冊子形式の通帳に、貸出の際発行するレシートを貼付していくもので、子どもたちは糊で貼りつける作業も楽しみながら、自分の読書量が目に見えるので「もっとたくさん読もう」と読書意欲をわかせています。

大人の方も、「以前読んだ本の書名が記録できていい」と言われたり、通帳の余白に簡単な読後の感想を記入したりと、上手に活用して頂いています。

本年度からは、町の健康促進・生涯学習推進のための「へそっぴーポイント対象事業」にも参加し、読書通帳がいっぱいになったら1ポイント付くことにして、みなさんにPRし、利用者が広がっています。

(吉備中央町図書館 田原茂美)



環太平洋大学附属図書館 読書ポイントカード紹介

I PU環太平洋大学は2007年開学のまだ若い大学です。本学の特徴として体育会所属の学生が多い点あげられます。

部活に忙しく、読書や図書館があまり身近ではなかった学生にいかに読書推進を進めるか、図書館運営委員会の教員と図書館職員で知恵を絞りました。図書館から10数個の企画をあげたうちの 하나가、今回紹介する「ポイントカード」です。1冊図書館を貸出すると、大学名の1字「環」をデザインした特注ハンコを1個押すという運用です。2014年6月のスタート時は学生の反応がとても心配でしたが、学生は笑顔でカードを受け取ってくれ、コミュニケーションツールとしても大いに役立っています。ささやかなプレゼント(右上写真)も読書の楽しみになっています。

この積み重ねがいつか貸出冊数の数字にも表れるものと確信しています。

(環太平洋大学附属図書館 奈良裕子)



倉敷市立図書館 読書通帳紹介

倉敷市立図書館では「こども読書通帳」を作成し、平成 27 年の「こどもの読書週間」から配布を開始しました。

A4 用紙 2 枚にプリントアウトし、4 つ折りにしたものをホッチキスで留める手作りのもので、20 冊まで記入できます。市内各図書館カウンターで来館者に配布するほか、ホームページからもダウンロードできます。

20 冊記入したあと、最後に「わたしのお気に入り」を記入するページを設けています。お気に入りを記入して図書館で紹介してくださった方には、ささやかですが利子（記念品）を差し上げています。

(倉敷市立中央図書館 原田栄一)

こども読書通帳 名前



	よ 読んだ日 読んだ 日	読 本の名前・書 いた人	ひとこと
1	☆☆☆☆☆		
2	☆☆☆☆☆		
3	☆☆☆☆☆		
4	☆☆☆☆☆		
5	☆☆☆☆☆		

赤磐市立図書館 読書手帳紹介

平成 26 年 6 月 6 日に赤磐市立中央図書館は開館 6 年を迎え、それを記念して手作りの読書手帳を作りました。市内 4 館で配布しています。読書手帳は大人版“本の記録”とこども版“よんだ本”の 2 種類。どちらも 4 色あり、好きな手帳を選んでいただけます。

当日の貸出資料のタイトルをプリントしたシールを手帳に貼れば、手軽に読書の記録を残すことができます。また手書きもできますので、感想を書くなど自分仕様にお使いいただくことができます。

面白かった本や感動した本、暮らしに役に立った本など、後で友達や家族、誰かに教えてあげることができますし、また、時おり見直して思いを巡らしたり……。続けて記録していけば、それは大切な読書の思い出、一生の宝物なるのではないのでしょうか。

夏休みに入っすぐ、お母さんとお兄ちゃん、妹さんにカウンターで手帳を紹介したところ、お兄ちゃんは緑色、妹さんは桃色の手帳を選ばれました。シールを手帳に貼るのは初めてです。上手にまっすぐ貼れるかな?? 2 人はドキドキしながら嬉しそうにシールを貼ってくれました。

長い夏休み、たくさん本が読めたかな。一冊の読書手帳が子どもたちの楽しい夏の思い出となっていますように。そしてこれから大勢の方の思い出作りに役立つことができますように。

(赤磐市立中央図書館 赤枝美香)



そらきたホイ！ 私たち流の読書支援

読書支援グループ「そらきたホイ！」

私たちは、子ども対象のおはなし会にとどまらず、読書ボランティア対象研修会、先生や保護者対象講演会、おはなし創作教室、乳児検診での絵本指導などの講師として、お声がかかれば「そらきた！」「ホイきた！」と出かけています。気がつけば15年以上が経ちました。

学校司書がいればこそその読書ボランティア

私たちが活動を始めたのは、我が子が通う岡山市内の小学校でした。その時、司書の先生が、私たちの活動を学校行事としてしっかりと位置づけてくださいました。おかげで、私たちの会は全校の先生に認知され（だからきっと授業にも生かされ）、しっかりと目標を持った、継続性のあるものになりました。軽い気持ちではじめた私たちも、やりたいという気持ちだけで進んではいけないこと、内容や目的をよく考えてしっかり準備してやらなければならないことを思い知らされました。

学校司書は、私たちのようなボランティアを学校の教育活動の中に取り込む大切な橋渡し役や、暴走しがちなボランティアの舵取り役です。

読み聞かせだけでは不十分

読み聞かせをしていけば、自分で本を読む子になるかと言えば、そう簡単ではありません。読み聞かせを聞くのは大好きなのに、自分で読むのは苦手と



【詩あそび 詩を声や動きで表現する子どもたち】



【本の紹介 読みたい気持ちをくすぐります】

いう子どもがたくさんいました。本好きにならなくてもかまわないけれど、必要な情報を読み解く力だけは身に付けて欲しいと思うようになりました。

私たちは、子どもたちの“自分で読む”を支援することを目的にして、読み聞かせだけでなく、いろいろな手法を常に模索して活動するようになりました。

自分で読む力を育む応援をみんなでしましょう

文章を読むにはいくらかコツや鍛錬がいります。ゲームなど、手軽で魅力的なもの、習い事などに時間を奪われている今どきの子どもたちには、文章を読む習慣を付けることは想像以上に大変なことです。子ども自身が本を読みやすく、読みたいくなるような大人の支援が必要です。例えば、手の届くところに本を置く、その子の興味・関心・程度にあった本を紹介する、読む時間を保障する、読んでいる姿を褒める、本や図書館を活用している姿を見せるなどです。学校・家庭・地域・行政、みんなで連携してそれぞれの立場で子どもの読書を応援していくことが不可欠です。

子どもたちが将来、仕事や趣味、癒やしのためなど、その時の自分の必要に応じて本や図書館を利用し、自分の生活を豊かにできるように、これからも私たちは、その時どきで必要だと思う読書支援活動を楽しく続けていきたいと思ひます。

(おはなしグループ「そらきたホイ！」相賀美幸)

津山市立図書館最近の取り組み

津山市立図書館（本館）は平成 11 年に複合型ビルのアルネ・津山 4 階に移転してから今年で 16 年目となりました。商業ビルにあるため、年間 345 日開館してサービスを行っています。当館で行っている最近の取り組みをご紹介します。

① 市内の大学・高専・高校等との連携

津山市では平成 20 年より市内にある美作大学図書館、津山工業高等専門学校図書館、津山市内 6 高等学校の相互協力に関する協定を結んでいます。これにより (1) 相互の図書館の資料の貸し借りと (2) 津山市立図書館の登録者で各学校在学・在勤の方は自校の図書館を受渡・受取場所として指定できます。各学校への配送は津山市立図書館の職員が平日に行っています。大学や高専の専門的な蔵書も貸借可能で、早ければ依頼した次の日に用意できることもあり、利用者に喜ばれています。また大学や高専にはこの連携により津山市立図書館の行事の講師をお願いしており、図書館の行事の内容充実に繋がっています。

また、津山中央病院医療プラザとの連携により、当館の資料の貸出・配送を行い、病院からは当館の行事「健康セミナー」への講師派遣をお願いするとともに、専門分野のレファレンスの助言をいただくこともあります。

② 津山の「調べる学習コンクール」

平成 27 年度は新たな企画として「第 1 回『見つけよう！津山の魅力』調べる学習コンクール」（市教育委員会主催、津山市立図書館事務局）を開催しています。津山っ子たちのふるさとへの愛着心、「課題解決力」などを養うために、疑問や興味を調べてまとめた作品を募集するコンクールです。対象は、津山市在住・在学の小・中学生（個人またはグループ）で、テーマは津山に関することを選べば内容は何でも構いません。市立図書館をはじめ津山郷土博物館、津山洋学資料館・津山弥生の里文化財センターやボランティアと協働で、津山を調べるサポート

勉強会を行う場を設け、調べたい内容のヒントを提供、市立図書館や学校図書館等で調べるお手伝いをします。コンクールの優秀作品は表彰し、市立図書館等で展示するとともに、冊子にして市内全小・中学校へ配布を予定しています。また、一部優秀作品を公益財団法人図書館振興財団が主催する全国コンクール「図書館を使った調べる学習コンクール」へ推薦します。

③ 夜の図書館の行事

“昼間とちょっと違った夜の図書館を楽しむ”というコンセプトで閉館後に明かりを落として開催しています。初回は平成 26 年 11 月に久米図書館で開催、続いて平成 27 年 3 月に本館で開催しました。



[夜の図書館の様子]

普段は入れない図書館業務用エレベータから忍者に扮した職員が 4 階の図書館まで案内。閉館後の真っ暗な図書館を進むとぬいぐるみが絵本を読んでいたり…。ブラックライトパネルシアターや図書館



クイズ、などなど大勢のお客様にご参加いただきました。

今年度 8 月にも第 2 弾として久米図書館と本館で謎解き、怖いおはなし、落語といった内容で「夜の図書館」を開催しました。この行事は開館中には使えない場所を会場にでき、にぎやかにやることも可能です。アイデアも次々に出て、予算が無くても楽しい行事ができました。初めて図書館に来たという方もおられ、魅力的な情報発信ができた行事となりました。

(津山市立図書館 有元康子)

県図協セミナー（第1回）報告

「図書館を変える主役は職員（あなた）です
～ビジネス書から学ぶ図書館経営～」

講師：豊田高広氏（愛知県田原市図書館長）

日時：平成27年6月1日 13:30～15:30

会場：岡山県立図書館 多目的ホール

さまざまなビジネス書が紹介され、それぞれの本の読みどころや、図書館活動にどう生かしていったかをお話いただきました。

私はこれまで図書館の仕事をする上で、所謂ビジネス書を読んで役立てようということはしてきませんでした。しかし豊田氏は、図書館に関する本を読むだけでは必要な知識は得られず、各館の状況の違いを無視して他館の真似をしてみても、自館には適さずドツボにはまってしまう虞があると話されました。

豊田氏はビジネス書を読むことにより、新たな気付きやアイデアを生み出し、サービス方針や組織運営に役立ててこられたということです。

その一例として、野中郁次郎他著『失敗の本質』（中央公論社）から、環境の変化に適応した新戦略を立てることを学び、『市民の図書館』の見直しに生かしたことを紹介されました。『市民の図書館』の重点目標の一つ「児童サービス」について、これを「子どもを含め、高齢者や障害者にも重点を置いた情報弱者サービス」へと考え方を換え、高齢者施設訪問などの活動に取り組まれています。

また、利用者との関わりについて、外山滋比古著『新エディターシップ』（みすず書房）を紹介されました。豊田氏は、「編集がいかに読者側に立ちにくいのか、読者を離れた編集がいかに無力なものになるか」という「編集者」と「読者」の関係について述べられた部分を、「司書」と「利用者」に置き換えて説明されました。これからも常に利用者の側に立ったサービスを心掛けていきたいと思いました。

選書において豊田氏は、ちきりん著『マーケット

感覚を身につけよう』（ダイヤモンド社）を紹介され、「マーケット感覚」を身につけることが図書館員には求められており、出版状況や社会情勢を見て選ぶことも大事な一つの方法であるが、その本が本当に自館に必要であるのか、利用者の求めに即しているのか、判断できる力も必要であると話されました。



〔県図協セミナー豊田氏講演〕

豊田氏がこれらのビジネス書を読み、自館の運営にどう生かし、その効果はどうだったのかもっと具体的に聞きたいと思いました。今後、田原市の図書館がどう発展するか注目していきたいと思います。

豊田氏は、『市民の図書館』の各目標を新しく考え直されました。さまざまな事例を紹介いただき、私たちの図書館の活動について改めて考えるよい機会となりました。そして私たちの図書館では、「図書館の本質的な役割は資料提供である」という『市民の図書館』の理念のもと、その本来の目標がきちんと達成できているか、問いかけ続けることが必要だと思いました。ひとりひとりの多様な資料要求に丁寧に応えられる図書館にした上で、私たちの図書館が、さらに多くの市民に活発に利用されるために必要な新たなサービスに取り組んでいけたらと思います。今回紹介された本も参考にこれからもさまざまな本を読み、仕事に生かしていきたいです。

（岡山市立幸町図書館 影山悦子）

**久米南町図書館
JBBY 主催「世界の子どもの本展」及び
「サトシンさん(絵本作家)講演会」開催**

JBBY(日本国際児童図書評議会)主催による「IBBY(国際児童図書評議会)がすすめる『世界の子どもの本展』世界の児童書 208 冊」を図書館内において、4月25日(土)から5月9日(土)まで開催しました。

期間中、国際アンデルセン賞をはじめ、イラストレーション作品・文学作品・翻訳作品の各部門等で賞を受賞した世界の絵本作品 208 点を展示。



〔世界の子どもの本展〕

来館者は、実際に本を手に取りながら、普段目にする事のない各国の言語やイラストの美しさに興味をもたれていました。

また、4月29日(水)、絵本作家のサトシン(佐藤伸)さんをお迎えし、講演会「楽しもう!絵本&おてて絵本-お話で心に寄り添う」を同時開催しました。



〔サトシンさん講演会〕

当日サトシンさんは王様姿で登場。プロジェクターを使い、読み聞かせや歌などのパフォーマンスで自身のお話(絵本)の世界を紹介されました。

中でも、両手を本に見立て想像力を働かせ物語を作っていく親子遊び『おてて絵本』の紹介では、即興で作ったお話を会場の女の子が披露。この日、会場からは笑い・驚き・感動・感嘆の音が絶え間なく上がりました。

今回、展示会及び講演会へ町内外からお越し下さったお客様を始め、展示会を企画して頂きましたJBBY 担当大原様、そして、絵本作家サトシン様へ、この場をお借りして図書館一同、心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

(久米南町図書館 國忠成子・金畑恵子)

**岡山市立瀬戸町図書館
「えほんのひろば」を開催しました**

岡山市立浮田小学校(岡山市東区)の「放課後子ども教室」で、「えほんのひろば」を開催しました。(2014年12月11日開催)

当日までに、「浮田っ子お話の会」の会員のみなさんと協力して、団体貸出で約300冊の本を用意しました。



〔えほんのひろばの子どもたち〕

当日、浮田ふれあいプラザの一室に、すべての絵本の表紙が見えるように並び、「えほんのひろば」を準備しました。参加した41人の子どもたちは、自分で読んだり、みんなで読んだり、読んであげたり、読んでもらったり…。思い思いのスタイルで、絵本を楽しむことができました。



絵本あれこれ研究家の加藤啓子さん(奈良県在住)が提案している「えほんのひろば」は、子どもも大人も一緒に、自由に好きな本を好きな方法で楽しむことができる取り組みです。絵本の楽しさだけでなく、絵本を仲立ちに「読みあう」空間の心地よさも味わうことができます。(数年前に、岡山県子ども文庫連絡会主催の講演会がありました。)

時間は45分。「おしまい」と声がかかっても、絵本のページをめくる手がとまらない子もいました。子どもたちからは、「最高の時間だった」「ぜいたくだった」「お母さんにも見せてあげたかった」などの感想がありました。準備は少し大変でしたが、一緒に参加していた先生や「浮田っ子お話の会」のみなさんにも喜んでいただけたようです。今後も、読書ボランティアの方と連携して、学校園などで実施できればと思っています。

(岡山市立瀬戸町図書館 石原恵以子)

事務局からのお知らせ

平成27年度理事会を5月13日に、定期総会を6月1日に開催しました。当日資料および議事録は、協会ホームページで公開しています。

【平成27年度役員（敬称・役職略）】

会 長	(施) 岡山県立図書館	村木 生久
副会長	(施) 岡山市立図書館	宮本 嘉彦
〃	(施) 岡山大学附属図書館	沖 陽子
理 事	(施) 倉敷市立図書館	中村美小代
〃	(施) 総社市図書館	風早 俊昭
〃	(施) 美作大学図書館	長谷川勝一
〃	(施) 金光図書館	金光 英子
〃	(個) 学校司書	原 弘江
〃	(個) 青年図書館員研修会	田中久美子
〃	(個) JLA代議員	菱川 廣光
監 事	(施) 津山市立図書館	谷口 善洋
〃	(施) 早島町立図書館	枳穀 聖子
参 与	岡山県教育庁生涯学習課長	中本 正行
	(※ (施) 施設会員、(個) 個人会員の略)	

■平成27年度図書館功労者表彰

個人会員として図書館業務に従事貢献した次の方を表彰しました。(敬称略)

井上真紀子	・ 井口真由美	・ 小野 礼子
小倉 大典	・ 北林 晴美	・ 坂口 桂蔵
多田千江子	・ 遠矢 厚志	・ 長瀬富美子
原 恭子	・ 水溜友紀子	・ 吉信友紀子

■本年度の研修

○県図協セミナー（第1回） 6月1日

「図書館を変える主役は職員（あなた）です
～ビジネス書から学ぶ図書館経営～」

講 師：豊田 高広氏

(愛知県田原市図書館長)

参加者：67名

○県図協セミナー（第2回） 8月20日

「インターネットで使えるレファレンスツール」

講 師：石川 美幸氏

(国立国会図書館関西館)

文献提供課 参考係)

参加者：28名

○教養講座 12月8日（予定）

テーマ「ビブリオバトルの魅力」

講師：岡野 裕行氏

(皇學館大学准教授・

ビブリオバトル普及委員会代表)

会場：岡山県立図書館

○県図協セミナー（第3回） 2月頃（予定）

「古い資料の取り扱いや保存（仮）」

○県図協セミナー（第4回） 3月頃（予定）

テーマ「地域づくりと図書館の役割（仮）」

■平成27年度企画委員

委員 長 片山 裕太 (久米南町図書館)

副委員長 田原 茂美 (吉備中央町図書館)

委 員 森本壮一郎 (岡山県立図書館)

〃 小林 博子 (岡山市立中央図書館)

〃 原 浩子 (倉敷市立児島図書館)

〃 多曾田陽子 (真庭市立勝山図書館)

〃 横山ひろみ (瀬戸内市立図書館)

〃 奈良 裕子 (環太平洋大学附属図書館)

〃 川上 研三 (岡山大学附属図書館鹿田分館)

■参加者・派遣者を募集中！

○研修参加助成事業による平成27年度の派遣者を募集しています。

○平成28年度研究奨励金の交付申請者も併せて募集しています。

詳しくは、協会ホームページをご覧ください。

平成27年9月30日発行

〒700-0823

岡山市北区丸の内2-6-30

岡山県立図書館 図書館振興課内

岡山県図書館協会 会長 村木 生久

TEL：086-224-1286